大分市歴史資料館年報

（平成15年度）

2004

はじめに

平成15年度年報をお届けします。

平成14年度からの"総合的な学習の時間"の導入を前に実施された"すこやか体験活動"を契機に、各種体験活動の充実をはかってきました。確実に利用者の増加につながりましたが、頭打ちの兆しも見えてきました。そのためにも、絶えず見直しと充実をはかること必要であると感じています。

本年度秋季特別展は『豊後府内　南蛮の彩り　南蛮の貿易陶磁器』と題して行いました。伝世品や各中世遺跡出土の華南三彩類と、大友氏の中世府内町出土の華南三彩類との比較展示を行い、中世府内町出土の貿易陶磁器類性格の一端を明らかにしました。

今後とも展示・普及活動をとおして、歴史を学ぶ場、そして歴史を体験する場として、より一層の充実を計ってゆきたいと思っておりますので、市民の皆様の暖かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

平成16年３月31日

大分市歴史資料館
館長　木村　幾多郎

目　　次

展　　示 …… 1
　常設展示　テーマ展示　特別展示
研究ノート …… 7
資料調査 ……15
資料収集 ……16
教育普及活動 ……20
平成15年度大分市歴史資料館研修報告 ……24
　金池小学校教諭　植木　和美
図　　書 ……26
資料館利用状況 ……32
管理及び運営 ……34
　歴史資料館協議会　組織・事務分掌・職員・歳入歳出
　施設管理業務の内容
施設の概要 ……36
条例・規則 ……38
日　記　抄 ……44
利用案内 ……46

展　　示

常設展示

本年度は旧石器・縄文時代コーナーのリニューアルと中世コーナーで特集展示を実施した。

(1)旧石器・縄文時代コーナー

大分市内で近年出土した旧石器～縄文時代の遺物を中心に展示替えし、同時に縄文時代の竪穴住居の生活を解説した音声ガイドや土器に文様をつける体験コーナーを設置した。

主な展示品　姫島から運ばれた大形黒曜石、日本最古のカゴ、横尾遺跡出土の縄文土器、4000年前のどんぐり、磨石・石皿、石鏃

(2)中世コーナー

特集展示「大友宗麟　海外に開かれた時代」

海外との交流・貿易を行った大友宗麟の時代を中世府内町跡の出土品やヨーロッパで出版された書籍・地図、南蛮屏風（複製）などから紹介した。

主な展示品　大友宗麟画像（複製）、海東諸国紀（写本）、『聖ザビエル伝』、ティセラ「日本図」、南蛮屏風（複製）、府内古図、華南三彩鳥形水注

テーマ展示

本年度は以下のテーマ展示を開催した。

第1回　自然をみつめる
－賀来飛霞の動植物図

会期　4月19日(土)～6月29日(日)
入館者数3,629人

国東郡高田（現豊後高田市）出身の本草学者賀来飛霞（1816－94）が研究のために科学的な視点で描いた動植物図を展示した。

主な展示品　芭蕉図、アジサイ図、オオバカシ図、マテバシイ図、ニワトコ図、ホドイモ図、伊勢エビ図、トンボ図、鳥図（シャモ）

第2回　大分西洋物語　瀧廉太郎を中心に

会期　7月5日（土）～10月13日（日）
入館者数　5,400人

本展では没後100年にあたる瀧廉太郎の遺品約30点を中心に西洋文化と大分との関わりを「瀧廉太郎の作品と生涯」「キリスト教の伝来とその後」「江戸時代の洋学」の3コーナーで紹介した。

主な展示品　瀧廉太郎自筆楽譜「花盛り」、瀧廉太郎遺品「メガネ」、瀧廉太郎筆「桜花図」、『日本の花束』、『永禄年間イエズス会士　日本・東洋書簡集』、『解体新書』

第3回　縄文の宝庫　横尾遺跡

会期　12月6日(土)～2月1日(日)
入館者数　2,501人

大分市・横尾遺跡は乙津川河口近くの左岸に広がる日本を代表する縄文時代の遺跡である。これまでの調査により縄文人の生活を物語る膨大な量の土器や石器、水場の遺構、日本最古のものカゴなどが発見された。本展では「縄文の交易と技」、「縄文の食卓」の2コーナーで横尾遺跡の出土品を紹介した。

主な展示品　黒曜石の原石・石核、黒曜石をおさめた日本最古のカゴ、石鏃、石斧、土器、ドングリ、シジミなどの貝殻、貝塚の土層

第4回　江戸の楽しみ　版画の世界

会期　2月7日(土)～4月4日(日)
入館者数　3,441人

江戸時代中期から流行した浮世絵は役者や庶民風俗、名所などを描き、主に町人たちを魅了した。本展では、浮世絵の三大テーマである美人画、役者絵、風景画のほか物語絵、武者絵、諸国名所物などを展示した。

主な展示品　忠臣蔵（初代歌川広重）、風流やつし源氏　松風（鳥文斎栄之）、大日本六十余将　豊後大友刑部大輔氏時（歌川芳虎）、東都名所　両国橋夕涼全図（初代歌川広重）、即興かげぼし尽くし（初代歌川広重）、長崎版画唐船図

資　料　収　集

資料収集委員会

1．会議

開催日　平成16年3月21日

場　所　歴史資料館会議室

議　題　(1) 購入予定資料の審議

(2) 寄贈・寄託資料等について

2．委員名簿

氏　名	役　　職	分　　野
加藤知弘	大分大学名誉教授	日本海外交流史
後藤宗俊	別府大学文学部教授	日本考古学
菊竹淳一	九州大学名誉教授 九州産業大学芸術学部教授	日本美術史
豊田寛三	大分大学副学長 教育福祉科学部教授	日本近世史
段上達雄	別府大学教授	日本民俗学

寄　贈　資　料

(1)柞原八幡宮旧宮迫坊伝来品一括　15件18点
河野　寿宣氏

(2)御輿　1台
若宮八幡社　祢宜　園田　孝吉氏

(3)四等機関兵修業記念アルバム　1点
河野　三郎氏

(4)写真機　1点
ツザキ写真スタジオ　稲川　恂子氏

(5)松平近儔　俳句　1幅
山田　芳久氏

(6)大分川河川敷採集　円筒埴輪　1点
松浪　久泰氏

(7)そでがらみ　1点
岡　賢蔵氏

(8)ラジオ　1点
秦　啓子氏

(9)陶器製壷ほか　10点
笠木　久子氏

(10)『増字永代節用』　2冊
古城　一男氏

(11)荷車　1点
小野　敏郎氏

購　入　資　料

(1)「探幽縮図」由原八幡宮縁起絵巻　2巻

上巻　13.7×624.0㎝　下巻　13.7×581.0㎝

市内の柞原八幡宮に現存する「由原八幡宮縁起絵巻」（全2巻、土佐光茂画・青蓮院尊鎮親王詞書　県指定有形文化財）を寛文2年（1662）8月に狩野探幽（1602－74）が縮写したもの。下巻後半部において詞書や絵に前後する部分があるものの、内容の全てが書写されている。絵は、長大画面を交えた11図が載せられ、水墨を基調としながら、処々に朱や藍・胡粉などで淡彩色を加え、軽妙な筆致で描かれており、巻頭の主題左には「松平将監到来、在所八幡ニ有候、寛文二、八月十一日」の覚書がある。

柞原八幡宮には「由原八幡宮縁起絵巻」に付随して探幽ならびに弟狩野安信の極書（鑑定書）が伝来しており、探幽のそれは「狩野法印」の名前で「松平将監様」宛に8月12日付けで出されている。探幽が法印に叙せられるのが寛文2年5月29日のこととされ、上記覚書の内容とも符合する。このことから、本縮図は、府内藩主松平忠昭が探幽に絵巻の鑑定を依頼し、その際に彼によって模写されたものと考えられる。

(2)　呉須赤絵寿字皿　1セット（5客）

高さ2.5　口径16.1～16.9　底径8.7～9.0㎝

中国明代末から清代初めに海外への輸出用として華南の沿岸地帯で大量に焼かれたもので、本品は、桃山時代から江戸時代初めに日本へ輸入されて国内に伝えられたものである。見込み中央に寿の字を青色で、周囲に花卉を赤・緑色であしらい、高台に荒い砂が付く、いわゆる砂高台になっている。同類のものが中世府内町跡から出土しており、その伝世品として貴重である。

(3)　漳州窯瑠璃地餅花手盤　1点

高さ7.9　口径38.9　底径19.0㎝

明代後期から末に中国の漳州で焼かれた磁器の一種。素地に白釉をかけた上に瑠璃釉をかけ、その上に白釉による点描や描線で草花文を描いている。国内では堺環濠都市遺跡や鹿児島県坊津から出土しているだけで、伝世品として希少なものである。

(4)　青磁玉壷春瓶　1点

高さ21.7　口径6.7　底径7.0㎝

中国明代の龍泉窯系青磁の瓶。胴部に箆彫で花文様を施す。同類のものが中世府内町から出土しており、その伝世品として貴重。

(5)　交趾香合（鳥形）　1点

高さ3.7　胴径5.3～4.0　底径2.3～3.7㎝

中国明代に華南地方で焼かれた三彩の型作りの水鳥形香合。中世府内町跡からは、鶴形水注・鴨形水注・果実形水注・鳥形水滴・琴高仙人形水滴・魚形水滴・合子などの華南三彩の各種型物が出土しており、この種類の多さは国内では沖縄首里城出土品に次ぎ、当該期の琉球と大友氏との深いつながりを示すものと考えられている。本資料は、中世府内町跡から出土した合子に当たるもので、その伝世品として貴重である。

(6)　交趾香合（花形）　1点

高さ2.7　胴径5.1　底径2.9㎝

上記同様、華南三彩の香合。蓋は牡丹文が型押しされ、花に黄釉、周囲に紫釉が施される。身は編み文が型押しされ、底面まで緑釉がかかる。国内の伝世品として貴重である。

(7)　青磁夜学型器台　1点

高さ15.0　口径24.5　底径14.0㎝

中国明代の龍泉窯系青磁器台で胴部には透かしを有す。本来は夜学をする際に机上を照らす灯明皿を置く台であったが、後に真鍮製の蓋と円筒形の鉢皿が付けられ、手焙（火鉢）に転用されている。中世府内町跡からも同様のものが出土しており、その伝世品として貴重である。

(8)　南蛮鍔（龍と異国文字図）　1点

長径7.0　短径6.2㎝

ポルトガルやオランダとの交易を通じてわが国に伝来したヨーロッパ文化の影響を受けて製作された異国風の意匠を有する鍔。当初ポルトガル人やオランダ人が佩用した剣の鍔を改造して日本の刀装として転用することが流行し、その後江戸時代中期以降、これを模したものが長崎や平戸を中心に盛んに造られた。本鍔は江戸中期に流行した南蛮鍔の一つとみられ、金や銀の布目象嵌を用い、龍とアルファベットとみられる異国の文字が表・裏共にあしらわれている。大友宗麟がいち早くアルファベットの印章（使用期間：天正7～9年）を用いた例に代表されるように、日本人の異国趣味を示す貴重な資料といえる。

(9)　南蛮鍔（南蛮船図）　1点

長径6.7　短径6.3㎝

上記同様、江戸時代中期に流行した南蛮鍔の一つ。表に山水と砧をうつ人物が肉彫りされ、裏に金・銀の布目象嵌で帆と旗に十字をあしらった異国船（南蛮船）が施されている。なお、鍔の表に作者とみられる「卜斎」の名前も彫られている。

(10)　南蛮鍔（十字と葡萄図）　1点

長径6.5　短径5.3㎝

上記同様、江戸時代中期に流行した南蛮鍔の一つ。鍔の耳中央に十字をかたどり、キリスト教に深い関わりをもつ葡萄の図柄が銀象嵌で表・裏にあしらわれている。

(11)　日本山海名物図会　5冊1組

25.5×18.0㎝

日本各地の産物の生産や捕採の技術を図示し解説した本。宝暦4年（1754）に初版が出て以降、数回版を重ねて出版されており、本書はその寛政9年（1797）版。著者平瀬徹斎の子忠重の跋文によれば、「金銀銅鉄の出所、その外諸

国山海の土産」について書き記したものに長谷川光信の画を加えて刊行したものとある。5巻5冊からなる同書には、巻一に採鉱冶金関係、巻二に顔料・農林系加工品関係、巻三・四に京西陣・越前奉書紙などの諸国特産品関係、巻五に水産関係の内容が記述されており、その中には豊後の特産品として「河太郎（河童）」や「清経蟹（平家蟹）」もとりあげられている。

跋文に「諸国山川海陸の物産に世をいとなむものを尋ねもとめて価を施して得たる所の現在の図」とあるように、所収された画（全93点）は正確・詳細で、各生産の技術の特徴をよく写しているといわれ、特に採鉱用の諸道具、製鉄用のたたら、樟脳製法、漆かき、砂糖絞り、製墨用の松煙取、仙台紙子、伊吹もぐさなどの図は他に類例がなく、技術史上貴重なものといわれている。

江戸時代県下では鶴成金山（山香町）・馬上金山（山香町）・尾平鉱山（緒方町）・木浦鉱山（宇目町）など多くの鉱山開発が行われており、その技術をうかがう上でも貴重な資料である。

⑿　山海名産図会　　5冊1組
25.1×17.2㎝

日本各地の産物の採取や生産の様子を図解した本（五巻五冊）。寛政11年（1799）に初版がだされて以後、版を重ねて出版された。画は『近江名所図会』『伊勢参宮名所図会』の挿図を描いた蔀関月で、著者は大坂の知識人で酒造家の木村孔恭（兼葭堂）と推定されている。本書はその初版本で、巻一に酒造、巻二に石材をはじめとする山地の産物、巻三・四に水産物関係、巻五に伊万里焼・松前の物産・長崎の唐船蘭船等が掲載され、それぞれに詳細な図と解説が加えられている。

巻一に載せられた酒造（伊丹酒造）は江戸時代に県下各地で生産された地酒の製法を、また「讃州のなまこ捕り」や「西宮の白魚」捕りの図は、『豊後国志』に辻間・佐賀関・姫島の特産品とある"なまこ"や同じく三佐・海部郡の特産品である"白魚"の漁法などもうかがえる貴重な資料である。

⒀　大分停車場構内扇形機関車庫写真帖　1冊
19.9×26.6㎝

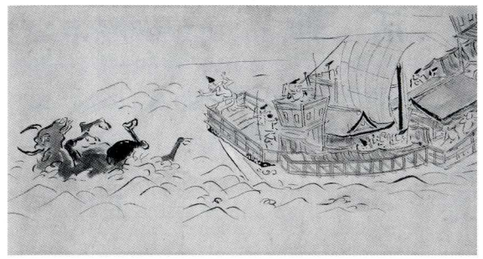
大分駅構内に設けられた扇形機関車庫の完成までの建築過程を撮影した写真帖。①竣工後正面図（右側ハ拡張準備トシ羽目板張トセリ）、②工事用具及鉄筋屈折作業図、③メネット式混凝土攪拌機図・混凝土用材料捲上ノ図④柱梁模型及鉄筋組立ノ図・屋根及大梁模型図（下面ヨリ見上ケタルモノ）、④屋根及桁梁支持足代図、⑤桁梁鉄筋配置図、⑥桁梁鉄筋組立図、⑦屋根鉄筋配列及混凝土填充之図、⑧工事中内部図、⑨工事中正面図、⑩竣工後内部図、⑪竣工後背面図の合計11枚の写真が収められている。

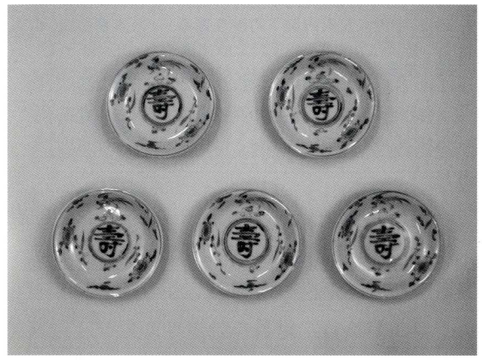
表紙の裏には、大正2年（1913）4月に那波光雄が遠藤某へ本書を贈呈した旨を書いた墨書、および工事費等の内訳とみられる鉛筆書もある。

本書の贈り主那波光雄は土木学研究者で、鉄道行政にも携わっており、鉄道国有化後の鉄道院中津、大分事務所長を歴任している。本写真帖は、彼が大分事務所長時代に製作されたものとみられ、恐らく上記機関庫の設計建設（大正2年完成か？）にも携わったものと考えられる。大分の鉄道史を知る上で貴重な資料である。

複製品・模型製作

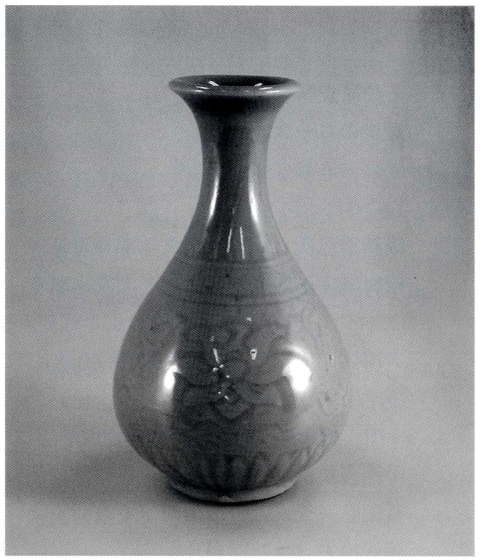
(1)　康保2年3月3日付
由原宮宮師僧仙照辞　1点
(2)　嘉応3年3月付
由原宮宮師僧定清解　1点
(3)　縄文人形（竪穴住居模型用）　2対
(4)　縄文土器施文体験模型　2点


(1)「探幽縮図」由原八幡宮縁起絵巻


(2)　呉須赤絵寿字皿

(3)　漳州窯瑠璃地餅花手盤

(7)　青磁夜学型器台

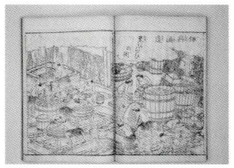

(4)　青磁玉壺春瓶

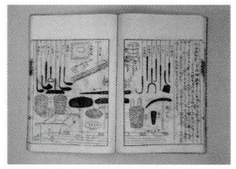
(5)　交趾香合（鳥形）

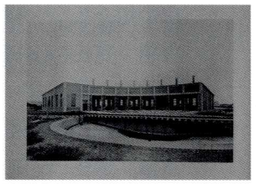
(6)　交趾香合（花形）

(8)　南蛮鍔

(9)　南蛮鍔


(11)　日本山海名物図会


(12)　山海名産図会


(13)　大分停車場構内扇形機関車庫写真帖

平成15年度大分市歴史資料館研修報告

研修生　　大分市立金池小学校
教諭　　植木 和美

1．研究主題

子どもが生き生きと活動しながら歴史を学ぶための地域教材の開発と資料館活用方法について研究主題とした。

2．研究内容

No.	研究項目 研究内容
1	地域教材の開発と具体的な指導例の研究 ○小学校４年生用教材「地いきのはってんにつくした人」及び小学校６年生用教材 ○「おおいたれきしミニテキスト」の作成 ○「地いきのはってんにつくした人」具体的指導実践例の作成 ○学校の教育活動（研究授業、クラブ活動）支援 ○大分市史、大分県史等文献による研究
2	資料館活用方法の研究 ○資料館の体験学習「親子歴史体験講座」「夏休みジュニア歴史講座」「資料館しごと体験」等活動の支援 ○「生活科」を意識した資料館活用方法の研究 ○学習指導要領「小学校社会科編」「小学校総則編・総合的な学習の時間」「中学校社会科編」における歴史資料館の役割の研究
3	自分の専門を深めるための研修 ○大分市歴史資料館主催の講座への参加 ○大分市歴史資料館主催特別展・テーマ展に関する学習 ○他の資料館、博物館、文化財等の見学 ○発掘現場現地説明会への参加
4	研修のまとめ ○研修報告書・資料作成

3．研究の成果と課題

①地域教材の開発と具体的な指導例の研究について

小学校４年生用社会化教材「地いきのはってんにつくした人」は「初瀬井路」「明治大分水路」を取り上げて教材化した。まず両水路を取水口から末端まで全線見学し写真を撮って資料を集めた。教材作成にあたっては江戸時代の用水開発についての専門書や古文書を読み、教材解釈の参考とした。そして、教科書の文字の大きさや文字数・行数に合わせたり、写真やイラスト・グラフを入れたりして子どもたちにわかりやすいようにした。小学校６年生用社会科教材「おおいたれきしミニテキスト」は教科書と関連のある大分市内の遺跡・文化財・歴史的事実に的を絞り、たずねる・調べる・考えるという３つの視点から教材作成を進めた。その過程で２校の小学校から研究授業のため小学校４年生社会科水路開発教材についての問い合わせがあり、教師たちと一緒に教材研究や資料調査を行った。その際に私が作成した「地いきのはってんにつくした人」を資料として活用していただき、研究した内容を実践に役立てることができた。また、私の勤務校である大分市立金池小学校の歴史クラブの活動に参加し見学地の説明をすることで研修で学んだことを生かすことができた。

②歴史資料館活用方法について

現在歴史資料館では「総合的な学習の時間」「社会科歴史的分野」「すこやか体験活動」等多くの学校が体験学習に訪れており、教師たちの評価も高い。これらの体験活動にかかわる中でこれまで歴史資料館の職員が積み上げてきた用具の準備や説明の手順をもとにしてさらに改良を加えた。学校の社会科の授業を意識した場合のねらいは何か、どうすれば説明を集中して聞いてくれるのか、どうすれば失敗を防げるのか、どういう指示や声かけをすればよりわかりやすくなるのかを教職15年間の経験を生かして考え、試し、歴史資料館の職員と話し合ってよりよい指導方法をめざした。また、引率してきた教師の姿に学ぶことも多かった。活動中子どもを励まし「それていいんだよ。」と声をかけていた教師、気になる行動をとる子どものそばに寄り添って話をする教師、集団行動でのマナーをきちんと指導していた教師、児童・生徒を前面に出して力をつけようとする教師等私自身が教師として今後大いに参考となる場面に接することができた。歴史資料館はこれまで小学校３年生社会科「くらしのうつりかわり」小学校６年生及び中学校社会科の歴史的分野の学習を中心にしての利用が多かった。そこで歴史資料館の活用の幅を広げるために「小学校生活科」に目を向けた活用方法を考えた。歴史資料館は大分市の施設であること、ＪＲ久大線豊後国分駅に近いこと、史跡公園があり自然に囲まれていることを生かして、生活科の「みんなでつかう」「のりものにのろう」「しぜんとあそぼう」の３つの単元と関連させ、小学校１・２年生の教師向けに資料を作成した。資料作成の過程で歴史資料館を活用することにより生活科でどのような力がつけられるのかも学ぶことができた。学習指導要領「小学校生活科編」「小学校社会科編」「中学校社会科編」「小学校総則編・総合的な学習の時間」の中で歴史資料館はどのような役割があるのかを研究してみた。そのなかで「郷土資料館に見学に行き、学芸員の話を聞く。」「体験的な活動を行う。」「施設を利用するときのマナーを身に付ける。」という文が頻繁に出てくる。このことから体験的活動や郷土資料館活用の重要性がわかり、大分市歴史資料館の体験活動は学習指導要領のねらいに即していることがあらためてわかった。

③自分の専門を深めるための研修について

歴史資料館では土曜日に市民を対象として講座を開催している。講座では現在発掘が進んでいる「中世大友府内町」に関する内容が多かった。私の勤務校金池小学校の校区と関連があり、発掘のたびに新たな発見があるのでたいへん勉強になった。また、民俗学等私があまり知らなかった分野についても勉強できた。古文書講座は私自身が大学時代にくずし字解読の講義を受けていたので久しぶりの力試しとなり、毎回予習して講座に臨んだ。テーマ展、特別展については、まず解説パンフレットや図録を読み自分の言葉でまとめを作成して展示物を見学するようにした。そうすることで展示物について深く知識を得ることができた。歴史資料館以外の資料館・博物館の展示についても見学に行った。大分県立歴史博物館や大分県立先哲史料館等に行き、パンフレットや図録と合わせながら見学した。見学後、要点を整理しながらまとめを作成した。旅行などで県外の資料館・博物館を訪れる時間をつくるように心がけた。他県と大分県の文化や考え方の違いに触れることができた。機会があるごとに大分市や大分県下の文化財や遺跡を見学し写真に収めた。見学後にその文化財について調べ、写真を入れながらまとめるようにした。地域教材作成のための専門書のほかに新書や文庫で発行されている歴史をテーマにした本や『大分県地方史』等の研究書を読み、歴史的事象についての基本的な解釈や最新の情報を学んだ。本の内容について要点を整理してまとめを作成した。

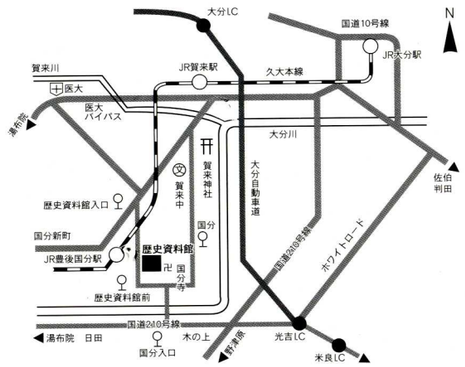
以上のような研修を通して、自分自身のこれまで歴史に関して学習してきたことをさらに深め今後歴史を研究していく上での新たな方策を身につけることができた。

④今後の課題

研修中に作成した「地いきのはってんにつくした人」「おおいたれきしミニテキスト」を自分自身で授業実践し、具体的な指導についてさらに研究を重ねていきたい。そうすることで子どもたちに歴史を学ぶ楽しさを伝え、同僚の教師たちにも歴史的事象の指導についての情報を提供できるのではないかと考える。また、歴史資料館の体験活動に子どもたちを参加させ職員の方々と連携して社会科の教材研究を行っていきたい。そして、自分自身も歴史資料館主催の展示や講座に参加し、書物を読み、見学をして自己の研鑽に励みたいと考えている。

利　用　案　内

開館時間午前９時～午後５時
（入館は午後４時30分まで）
休 館 日月曜日（祝日の場合は開館）
祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
観 覧 料大人200円（団体150円）
高校生100円（団体 50円）
小・中学生は無料
＊団体は20名以上
＊特別展開催中は別料金となる
　　場合があります。
交通機関ＪＲ久大本線
○豊後国分駅下車徒歩２分
大分バス
○歴史資料館前下車徒歩１分
国分新町・向原・今畑・中村・竜
　　原ゆき（全て賀来経由）



大分市歴史資料館年報
2004
発 行 日　平成16年10月15日
編集・発行　大分市歴史資料館
〒870-0864 大分市大字国分960番地の１
TEL(097)549-0880FAX(097)549-5766